

いんなみのりこの 小さな声と共に



NPO 法人 芭蕉の散歩道「ふれあいパトロール隊」賛助会員・隊員
安全協会大田原市部理事

ごあいさつ

新しい年を迎え早くも2ヶ月が過ぎ、桜の開花予想が聞こえてくる季節となりました。寒かった冬が終わりを告げ暖かい春はもうすぐそこ迄来ています。

私の市政活動報告会も第1回開催から1年経ち、第5回目を開催することが出来ました。これも日頃から私の活動をご理解ご支援して頂いている、みなさま方のお力添えのおかげです。本当にありがとうございます。

さて、昨年12月定例会では、「大田原市総合計画基本構想」について審議がなされました。これは「未来につなぐ国造り」を合言葉に5つの基本理念のもと、平成29年度を初年度とし平成38年度を目標年度とした向こう10年間の大田原市が目指す姿を定めるものです。また、小中学校の統廃合や学区再編。新庁舎整備工事も始まります。これから10年間で大田原市は大きく変わっていくことでしょう。私が市議としてやるべき事は、市政を正しくチェックし、みなさまの暮らしがより良い方向に向かっていくように提言して行く事だと思っています。その為にも1人でも多くの方のお話を伺い寄り添うことが出来る議員であり続けて行く所存です。新しい年になっても私の思いが変わる事はありません。「小さな声を市政へ」この決意のもと今年1年も議員活動を続けて参ります。みなさま、どうぞ今後とも私にご指導の程よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、本日はお忙しい中 いんなみのりこ市政活動報告会にお運びくださりありがとうございました。

大田原市議 いんなみのりこ

いんなみのりこ 活動記録

(2016年12月～2017年2月)

- | | |
|----------|---|
| 12月5-15日 | 平成28年度 第4回市議会定例会 (本会議) |
| 5日 | ファシリテーション研究会 |
| 7日 | 総合計画基本構想審査特別委員会 |
| 9日 | いんなみのりこ 一般質問登壇 |
| 12日 | 民生常任委員会
総合構想計画基本構想審査特別委員会 |
| 15日 | 広報広聴委員会
大田原小学校・紫塚小学校 新校舎内覧会 |
| 20日 | 金ヶ崎町議会行政視察受入担当 |
| 23日 | やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 26日 | 会派 一誠会より津久井市長に、
平成29年度市政に関する建議要望書提出 |
| 1月 3日 | 成人式 来賓 |
| 6日 | 新春名刺交換会
やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 10日 | ファシリテーション研究会 |
| 13日 | やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 16日 | 議会全員協議会
第8回大田原市、那須塩原市、那須町
3市町議員研修会 |
| 20日 | やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 27日 | やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 28日 | 高齢者コミュニティ住宅
ゆいまーる那須 視察 |
| 31日 | 市政に関する建議要望書回答会議
芭蕉の里安全パトロール隊 パトロール巡回 |
| 2月 3日 | やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 8日 | 会派勉強会 |
| 10日 | やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 11日 | 第26回生涯学習フォーラム参加 |
| 13日 | 議会全員協議会 大田原市議員研修会 |
| 17日 | 会派会議
仲町ほほえみセンター視察
やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 20日 | 3月定例会 一般質問通告 |
| 24日 | やまのて子ども食堂調理ボランティア |
| 26日 | 第5回 いんなみのりこ市政活動報告会
大田原市民研修事業 市民力アップ講演会 |
| 28日 | 芭蕉の里安全パトロール隊 パトロール巡回 |



12月定例会 一般質問



① 子ども未来館について

早いもので本年も残すところあとわずかとなりました。これから迎えるクリスマスやお正月シーズンに向けて、まちはことし最後のにぎわいと活気を見せてくれることでしょう。たくさんのお子さん連れのご家族が、楽しそうに買い物やイベントに参加される姿を目にする機会もふえ、行き交う人々の笑みがあふれる顔を思うと、ひととき師走の寒さを忘れ心が温かくなります。

また、反面、皆さんもご存じのとおり、今や日本は超高齢・少子化という大きな問題に直面しているのも現実ではあります。もちろん本市も例外ではありません。本市の出生数は年々減少し、年間560人前後の推移で、死亡数が出生数を200以上上回っており、人口は自然減となっています。

このような現状を打開するため、国は平成24年に子ども・子育て支援法を含む子ども・子育て関連3法を制定し、27年度からは本格的に子ども・子育て支援新制度をスタートさせています。また、次世代育成支援計画の法的根拠となる次世代育成支援対策推進法を、さらなる推進という観点から平成37年3月まで10年間延長しました。

本市においても子育て環境日本一を目指して大田原市子ども・子育て支援計画を策定し、厳しい財政状況の中、安心して子供を産み育てることができる環境づくりの実現に向けて、小中学校給食無料化、子育て支援券の発行、各種手当の支給、医療費、予防接種費用の助成など、さまざまな経済的な支援を実施して積極的に子育て支援を実行している姿勢には、私も子育て世代の一員として大変ありがたく感謝いたしております。

そして、トコトコ大田原子ども未来館も、こうした子育て支援の大きな一端を担っていると思います。私が本年6月定例会の一般質問で、子ども未来館の有料化に伴い入場者数が減少し、これを想定内の範囲ということでしたが、立場を変えてみれば、利用しづらくなったご家庭があるということもあり、利用者の負担軽減のため、年間パスポートの発行をご提言いたした際に、前向きにご検討くださるとのご答弁をいただき、その後の調査や進捗状況が気になっているところです。そこで、お伺いします。

(1)、今年度6月以降の入場者数や市内外の利用者

の割合などの現状をお伺いいたします。

(2)、年間パスポート発行について、調査及び進捗状況についてお伺いいたします。よろしく申し上げます。

◆津久井富雄 市長◆

質問事項1、子ども未来館についてのうち、(1)、今年度6月以降の入場者数や市内外の利用者の割合などの現状を伺いますとのご質問にお答えをいたします。

わくわくランド、キッズタウンにつきましては、平成28年6月から10月末現在の入館者数は88,604人で、月平均17,720人、1日平均590人となっております。また、有料対象児童の市内外の利用者の割合につきましては、平成28年6月から10月末までに27,167人の利用者があり、内訳につきましては市内の児童が10,248人で全体比37.7%、市外児童が16,919人で全体比62.3%であり、市内4割、市外6割といった状況となっております。

次に、(2)の年間パスポート発行についての調査及び進捗状況について伺いますとのご質問にお答えをいたします。6月定例議会で印南議員からのご提案がありました年間パスポートにつきましては、まず有料化後の入館者の推移を見ているところであります。わくわくランド、キッズタウンの入館者数は、ただいま申し上げましたとおり、この7カ月間におきましては一定数のご利用を得られており、適正な人数により安全な運営ができています状況と考えております。今後も引き続きトコトコ大田原オープン時のコンセプトであります「まちなかでの子育て世代の社会活動を支援する」という目的を基本として、子育て世代の文化活動や購買活動等の促進を図るという観点を踏まえつつ、有料化初年度である今年度1年間の利用者数の推移と動向を注視しながら、年間パスポート導入の可否を含めて見きわめていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。以上でございます。

◇印南典子 議員◇

それでは、再質問させていただきます。

私が前回質問したときよりも入場者数は、たしか前回は前年と比べて30%減ということだったと思いますが、今の数字をお伺いすると、25%減ぐらいまでに回

復しているということがよくわかります。それで、お伺いしたところによりますと、土、日と平日の利用に結構差があるということなので、平日と土、日と、あと長期休暇の入場者数の違いや割合を教えてくださいたいと思います。

◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

ただいまのご質問にお答えをいたします。

平日と休日等の利用の状況というふうなことでございますけれども、まず6月から10月ということがございますので、6月から10月の期間の利用者数を申し上げます。27年度につきましては、平日で51,273人、28年度におきましては38,880人ということがございます。休日につきましては、27年度が62,011人、28年度が49,724人、合計をいたしますと27年度が113,284人、28年度が88,604人というふうな状況でございます。一応休日というふうなくくりで祭日等も全部長期休暇、そういった形も含めておりますので、数字的には平日と休日というふうな形でしか数字を把握しておりませんので、申しわけございませんが、ご理解いただければと思います。

◇印南典子 議員◇

今お伺いしたところによりますと、土、日や長期休暇の入場者数はほぼ見込み数に達していて、順調ということがうかがえると思います。むしろ混雑が避けられて、休日などは今の状況が望ましいのかなという気もいたします。このトコトコ大田原の目的の一つでもある町なかのにぎわい創出ということを考えてですが、平日の入場者もふやしてさらなる有効利用を促進して、利用する子供たちやご家族にも喜んでもらえるようにしていくのが望ましいと思いますが、その点についてのお考えをお伺いいたします。

◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

ただいまのご質問は、平日の利用者ももう少し増やしていけたらというふうなご質問かと思えます。確かに有料化に伴いまして、平日も若干減少したというふうな状況がございます。ただ、平日の利用者の減という部分につきましても、オープンをしてからある程度の時間がたっていて、オープン当初につきましては、ある程度興味があるというか、オープンして間もないということで大勢の方がおいでいただきましたけれども、ある程度時間がたって若干減少するのは、これはやむを得ないというふうな考えております。

それと、もう一つは、あそこを平日利用できるという方につきましては、恐らく0歳、1歳、2歳のお子さ

んを家庭で子育てをされている方が対象になるかと思えます。3歳以上につきましては、保育園なり幼稚園に通っていますので、なかなか利用ができない。0歳、1歳、2歳につきましても、今小規模保育園なども充実しておりますので、共働きというふうな家庭もふえてきているということで、保育園に預ける家庭もふえてきている。そういった観点を考えますと、全体的に平日あそこの利用をできる対象者、そういう方が若干少なくなってきたのが現状かと思えます。

それと、もう一つは今まで夕方おいでになって、例えば5時までですと、4時とか4時半ごろ来て30分、1時間、無料だから遊んでいこうといった方が、30分、1時間で200円ということなものですから、そういうところで利用が控えられているという部分もあるかと思えますので、確かに利用をもう少しふやせるという部分はあるかと思うのですけれども、なかなかそこをふやしていくというのは、まちづくりカンパニーとも協力をしながら手だてを考えていきたいとは思いますが、平日を今までのように伸ばしていくというのは、なかなか難しい部分もあるのかなというようなことで考えております。

◇印南典子 議員◇

今のご答弁ですと、平日の短時間の利用者の方が、やはり有料ということで短時間で200円はちょっとということで、差し控えられているという現状分析だということだと思うのですけれども、例えば平日限定の年間パスポートを発行すれば、土、日や長期休暇の混雑時にさらなる混雑を避けることができると思います。また、土、日や長期休暇中は1回の利用時間を2時間までとしかして入れかえ制にすれば、混雑時でも今よりも多くの方に利用していただけたと思うのですが、その点についてお考えをお伺いいたします。

◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

ただいま、導入の際につきましても、そういったやり方もあるというふうなことで、今、議員さんのほうからご提言をいただきましたので、導入をするかどうかというのも含めまして検討させていただきたいと思えます。

◇印南典子 議員◇

それで、導入の際にはということですが、あともう一つ、年間パスポートの価格設定や受益者負担という公平性の観点から、1回ごとに利用料金を払うのは当然のことだと私も認識しております。また、遊具の整備や更新のための費用負担も厳しい財政状況の

中では大変重いということも、利用者の方もよくご理解していただけていることだと思います。これ以上の負担を市に願うのは、私としてもとても心苦しいところでもあります。

ところで、栃木SCというサッカークラブがあります。ご存じの方も多いかと思いますが、実は私はサッカー音痴で、このお話を関係者の方からお聞きするまでは余りよく知らなかったのですが、ここは栃木SC夢パスという年間利用パスポートを発行して、小中学生の観戦を年間通しての無料化を実現しています。これは栃木サッカークラブの基本理念である「Tochigiに感動を!!こどもたちに夢を!!」に賛同していただいた企業から、1口当たりの金額を設定して募金を募り、それで子供たちの年間利用料を負担してもらって誕生したというものです。2014年から継続しているものです。もちろん、来年度も継続するということです。対象は、栃木県内に在住または栃木県内の学校に通う小中学生です。

この事業にかかわった方のお話ですと、行政側の財政負担なしに子供たちの無料利用が実現でき、パスポートの裏面に協賛企業の名前を入れたり、広告ポスターに企業名を掲載することなどで企業のイメージアップにもつながるといことです。また、子供たちは、君たちの夢を買うよという企業が地元にかくさんあるということを知る機会にもなり、ふるさとに誇りと愛着を自然と持てるようになるそうです。また、これからの時代、行政と民間企業が協働して力を合わせて子供たちの育成に協力し合うというのは、まさに共同互惠、自助、共助、公助のあるべき姿の一つだと思います。また、これは子ども未来館の年間パスに利用できるだけでなく、例えばなかがわ水遊園であるとか、市のスポーツ施設などにも応用できるのではないかと思います。この点についてのお考えをお伺いします。

◆津久井富雄 市長◆

ただいまのご質問にお答えをいたします。

大変素晴らしいご提案をいただきましてありがとうございます。栃木SCの場合には、民間企業のスポーツ事業ということで捉えていくわけでありませけれども、その中でも栃木の子供たちに夢をということで大きな期待を子供たちに与えるということで、企業間において寄附を募って無料パスポートをつくるというアイデアは、大変素晴らしいことだと思います。

ただ、公の施設のところで、例えばこの無料パスポートをつくったとして、それをどういった方々に配布していくかという課題があるかと思っています。そういったところもよく研究をして、可能であれば、先ほど言

われている年間パスポートの中で企業の方のご参入をいただいて、自助、共助、公助の仕組みというものがつくるといいかなという感じはしますが、まだかなり検討していい制度ができればという感じもしております。

また、利用者の中におきましては、質問の中になくて大変恐縮なのですが、駐車場を利用されている方とか、またはトコトコマルシェを利用されている方々にも、チケット2,000円以上とか駐車券を使っている場合には無料にしますとかという、そういった工夫をし始めて、その成果を見ているところでもあります。そういったことを含めまして、今、印南議員からご提案いただいたことも検討材料としてより精度を高めていって、利用客が平日も、また休日は混むことなくというバランスのとれた利用体系をつくっていければ、また金銭的に大変厳しいという方に無料券が配布できる方法があるかないか、そんなことも含めて今後検討させていただきたいと思います。

◇印南典子 議員◇

大変市長のご答弁、納得がいくものがあります。やはり、こういったものは丁寧に時間をかけて、長く続く制度にしていくことが大切だと私も理解しております。今あるものを掘り起こして新しい協働の形を模索することで、財政負担を最小限に抑え最大限の効果をもたらし、子育てしたい大田原、「子育て環境日本一」を名実ともに実現して、子ども未来館がその一翼を担える存在になることを希求して、次の質問に移らせていただきます。



② ありがとう運動について

先日、4度目の再選を果たした福田知事は、2017年におもてなし条例を制定するというを新聞報道などで明らかにしております。私は、おもてなしの心の根底にあるものは、ありがとうの心ではないかと感じています。先日の高木議員の質問のご答弁でもするように、大田原市では平成24年から市内全小中学校でありがとう運動を実施しています。その結果、児童生徒の自己重要感は15%アップし、全国平均を5%上回ったということで、この運動の効果は数字の示すとおり明らかであると思います。ありがとう運動が本市にあることは、市民の宝であると感じております。そして、この運動が平成26年のありがとうの会設立につながり、学校現場のみならず、家庭や職場、地域社会にもさらに広まる可能性を感じ、本市の目指す「ありがとう」で幸福度日本一を実現するために着実に歩を進めていることを喜ばしく思っています。

また、以前君島議員、先日の星議員の質問にもあったようにDCキャンペーン、この国内最大の観光キャンペーンを最大限に有効活用することは、本市にとっても大変重要度の高いことであり、ありがとう運動をDCキャンペーンに向けてもう一度磨き上げていくことは、地域からDCを盛り上げていくことにつながっていくと思います。

そこで、(1)、栃木県が2017年におもてなし条例を制定するとの報道がありました。本市もそれに呼応し、ありがとう運動をさらに全域に広げることが望ましいと考えますが、市のお考えをお伺いいたします。

◆植竹福二 教育長◆

質問事項の2、ありがとう運動について、(1)、ありがとう運動を市内全域に広げることが望ましいと考えるが、市の考えを伺いたいとのこと質問にお答えいたします。

ありがとう運動につきましては、運動開始3年目の平成26年度より、市民運動にすべく大田原商工会議所に事務局を置く大田原ありがとうの会が発足いたしました。市としましては、ありがとうの会の取り組みと小中学校の取り組みが連携したものとなり、さらなる相乗効果があらわれるよう協力してきております。さらに、ありがとう運動に賛同いただける団体等に働きかけを行い、今年度は大田原市をエリアとしている3つのロータリークラブが連携する形で、ありがとう

のメッセージをプリントしたランドセルカバーを新1年生に寄附していただきました。今後ともありがとう運動が学校での取り組みで終わることなく、市民運動として広がっていくよう、大田原ありがとうの会と連携して取り組んでまいりたいと考えております。

◇印南典子 議員◇

県は、このおもてなし条例を制定するに当たって、おもてなし向上検討会議の中で、おもてなしの向上に取り組んでいくという意識を県民全員で共有することが大切と言っております。来年度のプレDCを勉強の場として活用し、本番のDCにつなげていきたいとも言っております。本市もありがとうの言葉を柱に意識を市民全員で共有し、ありがとうの言葉で訪れてくださるお客様をオール大田原でお迎えできたら、きっとまた大田原に来たいと思う方がふえてくるのではないかと思います。

プレDCは、本市にとってもまたとない勉強の場です。本市では、現在教育委員会が小中学校でありがとう運動を展開し、商工会議所がありがとうの会の運営事務局となっています。教育委員会のスローガンは「日本一「ありがとう」があふれる学校づくり・まちづくり」、大田原市のスローガンは「「ありがとう」で幸福度日本一の大田原を」、そしてありがとうの会のスローガンは「感謝の言葉「ありがとう」が人を幸せにする」、それぞれのスローガンのもとでそれぞれ素晴らしい活動を行っていると思います。今後はそれを一歩進めて連携、一本化して、共通認識のもと、市民全員参加のありがとう運動に発展させていったらいかがでしょうか、市の考えをお伺いいたします。

◆植竹福二 教育長◆

大田原市のこのありがとう運動は、一旦教育委員会の生涯学習課で始めましたけれども、市民全体に広げていこうということで商工会議所に事務局を移して、現在、学校、市全体一体となって今進めているところであります。

◇印南典子 議員◇

ありがとうの会は、現在会員数、個人、法人合わせて126名、設立当時125名なので横ばい状態です。11月に行われるチャリティー講演会の参加者人数は、

初年度が 300 名、平成 27 年度が 120 名、本年は 150 名と多少ふえましたが、やはり当初から比べれば半分の参加者です。現場の方から、PR に努めても、まだまだありがとう運動を知らない方たちに周知が図れないというお声もいただきました。せっかく広まりつつあるありがとう運動をさらに広め、DC を盛り上げ、たくさんの子供たちがありがとうを言ってくれたこの運動、今度は子供たちがありがとうと言ってもらえる大人になるまで継続していくための方法として、統一の専門部署を設けてありがとう条例を制定し、市の将来像を基本理念として、市民全員参加でありがとうで幸福度日本一を目指すというのはいかがでしょうか、お考えをお伺いいたします。

◆佐藤英夫 総合政策部長◆

ただいまの再質問にお答え申し上げます。


条例を制定したらどうかというご提案かと思いますが、ありがとう運動の理念につきましては、当然お互いを認め合う、お互いを敬う、尊重し合うということが当然の理念かと思えます。これにつきましては条例を制定するというよりも、市民全体の基本理念であります大田原市民憲章あるいは自治の基本理念を定めました大田原市自治基本条例、この中に既にその理念が盛り込まれていると考えています。

具体的に申し上げますと、大田原市民憲章の中で「若

い力をそだてとしよりをうやまう」あるいは「きまりを守りなごやかな家庭をつくる」といった理念、それから自治基本条例の中におきましては、その前文の中で「一人ひとりが地域社会の主役であることを十分に自覚し、お互いが個人として認め合い、尊重し合い、関わり合い、支え合い、助け合わなければなりません」という形の理念がうたわれております。ということで、議員がおっしゃった市全体でありがとう運動を進めることによって、この市民憲章及び自治基本条例の理念が一層市民の間に浸透していくものと考えております。

◇印南典子 議員◇

なかなか条例を定めるということはハードルの高いことだと思います。ですが、今、3 つがそれぞれで頑張っているところ、点で頑張っているところを線でつなげていって、それぞれがつながっていくような状態で DC、プレ DC を迎えられるような方法を、市でも今後また模索していただいて、ぜひともこのありがとうという言葉を大切に観光などに生かしていただけたらありがたいと思います。本市がありがとうであふれ、ここに暮らす人々に安らぎを、訪れる人々におもてなしの感謝の気持ちが日本一あふれるまちになるように心から願いを込めて、本日の私の全ての質問を終わります。ありがとうございました。



☆ 今後の活動予定 (3 月) ☆

3 月 3 ~ 21 日 平成 29 年 3 月定例会

9 日 中学校卒業式 来賓

17 日 小学校卒業式 来賓

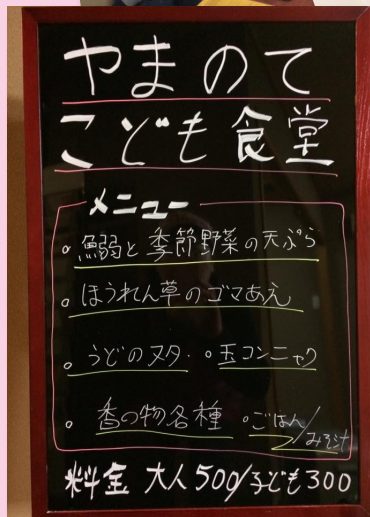
21 日 議会全員協議会

3 月定例会での一般質問、質問事項

- 1 本市の子ども、子育て世帯、高齢者支援について
 - (1) 支援を必要とする子ども達に対する本市の取組の現状と今後について伺います
 - (2) 住宅確保要支援者に対する、本市の取組の現状と今後について伺います
- 2 与一まつり、屋台まつりについて
 - (1) 現状と課題について伺います
 - (2) 人に優しいお祭りにする為の、今後の政策について伺います

この 2 つの事項について一般質問します。
お時間のある方は傍聴に来ていただくと嬉しいですよ。ホームページから中継でも視聴できます。
また、後日市のホームページでも録画配信されます。

活動記録 アルバム



やまのてども食堂
調理ボランティア



生涯学習フォーラム



平成 29 年度市政に関する
建議要望書提出



高齢者コミュニティ住宅
ゆいまーる那須

2017年2月26日発行

いんなみのりこと共に歩む会

いんなみのりこと共に歩む会会長 二見令子

事務所：大田原市町島 200-39

TEL：080-5697-8581

<http://innami-noriko.info/>

いんなみのりこ

小さな声も
市政へ

